



## サボテンには、なぜとげがあるの

### サボテンは、生きるのにきびしい場所に生えている

サボテンは、ふつうの植物と比べると、くきも葉もないような、変わった形をしています。しかし、まん丸だったり、うちわのように平べったい緑色の植物の体そのものが、くきだといわれています。そのわけは、花が、じかにくっついて咲くからです。

ふつう、植物は、根からたえず水を吸い上げ、葉から、水蒸気を大量に空気中に出しています。サボテンの原産地は、水が少ない砂ばくなどで、昼夜の気温差が激しい所です。ですから、水をできるだけ失わないように、葉がなくなり、全体が厚い皮に包まれ、内側に、水分や栄養をたくさんためておける形になった、といわれています。

サボテンは、たいてい、とげや、細かい毛のようなものを体の表面に生やしています。これは、枝が変化してできたと考えられています。サボテンは年をとるほど、とげや毛が増えてくることが多いといわれています。

### とげは、身を守り、水分集めにも役立つ

とげは、動物などに食べられないよう身を守ってくれる役目をし、たくさん生えている場合は、強い日光から表面を守る役目もしています。また、雨の少ない所では、夜、急激に気温が下がって、霧ができることがあります。こんなとき、たくさんのとげや毛が霧の水分を集めて、根もとに水てきとして落とすようなしかけになっています。また、寒い時期に、じかに植物の皮の表面に、水てきがついて、皮がこおりつくのを防ぐのにも役立っています。でも、サボテンをえさにしたり、すみ家になっている動物もいますし、これらの動物は、サボテンのとげなど、平気です。（監修・矢野 亮）

